

各務原市から世界の空へ 正確で細やかな仕事で航空機産業を支える

～三本の柱は航空機の機体部品組立、板金部品製作、オリジナルバス製造～



岩戸工業 株式会社

代表取締役

井納 誠氏

- 住所：各務原市鷺沼川崎町二丁目10番地
- TEL：058-383-8111
- FAX：058-383-8113
- URL：<http://www.iwado.co.jp>
- 事業内容：航空機機体部品組立、バス車体部品製作、バス車体改装・再製及び修理塗装、建設機械・工作機械部品製作・塗装
- 連結従業員数：201名

■「岩戸自動車」始まりは 戦後の大型バス製作請負から

聞き手：まず御社の始まりを教えてくださいませんか。

井納社長：私の父・徹はもともと川崎航空機工業(株)岐阜製作所(現川崎重工業(株))に務めていました。その後、山口車体工業(株)の立ち上げの際に山口社長さんとの縁から関わるようになったのですが、程なくしてその方は交通事故で亡くなってしまいます。そのため、将来の事を考え山口車体工業より独立し「岩戸自動車(株)」を昭和32年に設立しました。設立時は鷺谷トンネルのある岩戸地区にあったことから、この社名になりました。

2年後に現在の各務原市に移ったのですが、工場を建ててすぐに伊勢湾台風で屋根を飛ばされるなど、大変なスタートだったようです。戦後川崎重工業では航空機の生産が禁止されて、代わりに大型バスを製作していましたので、部品製作と、社員を工場へ派遣して結構(組立)等の作業を請け負っていました。さらに、36年には「自動車分解整備認定工場」となりましたので、車検まではやらないものの、改装・改造や事故車の修理等も広く請け負えるようになりました。

聞き手：ターニングポイントなどはありましたか。

井納社長：バス改装・修理については、当時は、川崎重工業の支援をいただきながら独自で営業活動を行い今日に至っております。今では事業の6割超を占めている航空機機体部品組立の事業は、昭和41年から始めました。

大きな転機としては、昭和58年にアイ・ケイ・コーチ(株)(川崎重工業のバス部門)が宇都宮市へ移転したことです。

当時はバス事業が8割を占めていました。時を同じくして、(株)東洋工機(パジェロ製造(株))より仕事を受注することになりました。これは雇用を守ることと川崎重工業以外からも仕事を受注することで、企業としてもより一層技術の向上を図れば、と想っていたことでした。この頃、社名も岩戸工業に変更しました。

しかし、これからの航空機の新機種への取り組みをするために、大きなエリアの確保が必要なため、平成15年にパジェロの生産から撤退を決断致しました。売上には大きく響きましたが、おかげで現在があるとも思っています。結果として今では航空機関連が6割超、バス部品等の板金関連が3割、オリジナルバス製作が7%程度となりました。ちなみに航空機関連の仕事は、開始から50年が経つのですが、実は最初の40年間は収益面では大変厳しい仕事でした。社内からやめるべきだという声が出たこともありましたが、続けてきて良かったと思います。

■ 道徳的な仕事ぶりが 空を飛ぶ安全性につながる

聞き手：社員の皆さんに求められることは、どのようなことですか。

井納社長：道徳的なこと、モラルが一番ですね。凡事徹底ということかと思います。

川崎重工業ではボーイング767、777、787、防衛省の輸送機や大型ヘリコプター等を手掛けられています。当社はその部品製作やアセンブリの部分について、ほとんどの機種で何かしら担当させていただいています。部品や資材は支給されていますが、汗を流して組み立てているのは自分たちだということで、社員には自信や誇りを持ってほしいですね。新入